

令和4年度 学校評価自己評価表 三次市立三次小学校

【達成度】＝達成値／目標値×100 【評価】④≥100, 80≤③<100, 60≤②<80, ①<60										学校関係者評価 〔適正…○ 不適正…△〕			
領域	中期 経営目標	短期 経営目標	目標達成のための 主な方策	評価指標	目標 値	中間		年度末		結果と課題の説明	改善計画	評価	意見・理由
						達成値	評価	達成値	評価				
確かな学力	基礎的・ 基本的な 学力の向 上	全児童が該当 学年の計算問 題を確実に行 うことができ る	□朝のドリルタイム では、認知機能強化 のドリルを取り入 れ、授業では集中し て取り組む時間を設 けて定着を図る。	◆単元末テストの「数と計 算」領域の「知識・技能」の 項目の平均正答率を75%以上 にする。	75% 以上	87.3 %	④			平均正答率を75%以上にする目標を達成することができた。 ドリルタイムにコグトレを取り入れたり、給食準備時間に学力 補習を行ったりした。学年が上がるにつれて平均正答率が低 くなっているし、わり算の単元が低いのでかけ算の九九の定 着を図っていききたい。全体では、75%以上達成できているが、 達成できていない児童がいるので、個の見取りもしっかりみて いききたい。	コグトレをして苦手意識をもっていること に改めて気づいたので、引き続き取り組ん でいく。コグトレの問題を紹介しながらい ろんな問題にチャレンジさせたい。次学年 に向けて、当該学年で定着しなければい けないことを明確にして、確実に力を付け ていききたい。	○	・コグトレ、LTSを続けて成果をあげてくださ い。 ・どの学級も先生の話を中心して聞く姿が 見られた。 ・隙間時間を利用して個別に定着を図っ ておられ、さらなる成果を期待している。 ・論理的思考力を身に付けるためにも必要 なことと思います。
		伝え合う 良さを実 感できる 表現力の 育成	□「課題の設定」 「情報の収集」「整 理・分析」「表現」 「実行」「振り返り」 という探究的な 学習の流れを意識し た単元構成 □聴き合い、伝え合 う授業づくりや自分 の思いを伝えること ができる学級風土の 確立	◆生活科・総合的な学習の時 間において「考えを伝え合 うことは楽しい。」「考えを伝 え合うことは大切だ。」とす る肯定的な評価の児童の割合 を70%以上にする。  ◆各学期末や単元の振り返り において、「コミュニケーション 能力」「協調性」「主 体性」のアンケートにおいて 肯定的に答えた児童をそれぞ れ70%以上にする。	70% 以上	楽しさ 達成値 87.4% 達成度 124.8  大切さ 達成値 93.5% 達成度 133.5	④			「考えを伝え合うことは楽しい。」および「考えを伝えることは 大切だ。」と肯定的に捉える児童は、70%以上だった。伝える ことは大切だと感じている児童は多いものの、楽しいかとな ると低い傾向にある。伝えることへの抵抗感がある児童に対し て、伝えてよかったと思える場を設定した授業を行っていく。	安心して意見を伝えられる学級づく りを行っていくとともに、授業におい て、意図的にペアやグループで伝え たり話し合ったりする場を設定し、伝え 合うことの良さが実感できるようにして いく。	○	・成果があがってきているので、より身に付 くようにしてほしい。 ・授業の中で一つのことをペアやグルー プで話し合う場をもつことができている。 ・自分の考えを伝えたいような場の設定 をお願いします。 ・テーマに基づいて意見を言い合うような 授業を積極的に取り入れてほしい。
		運動会の振り返りシートも「コミュニケー ション能力」「協調性」「主体性」の観点 で書いた。その結果を整理・分析して継続 して進めていく。行事や授業の中でも3つ の力を育むような活動を仕組んだり、肯定 的な評価を入れたりしていきたい。	○	・具体的にどのような点が成長しているか を児童に分かりやすく伝えることが大切。 ・相手の意見を聞く、自分の意見を話す、 相手を思いやる心を身に付けてほしい。 ・3つの資質・能力と具体的などのような姿 に対応するか子供たちに価値付けをする ことが大切。 ・保育所でも取り組んでいる観点ですが、 難しい課題です。									
		小中合同のあいさつ運動やあいさつ名人の取組を通して、肯定的 に評価を続ける中で、自ら挨拶を頑張っていると感じることができ ている児童が増えてきている。登校や下校時以外での学校生活での あいさつは全体的には不十分であると感ずる。	○	・挨拶は笑顔で相手の目を見て大きな声で できるようにしてほしい。 ・挨拶の意義について発達段階に応じて 語っていくことが大切。 ・通学路でもよく挨拶をしてくれます。									
		ノーチャイムの取組や、児童玄関で日々の評価を掲示していくな かで、時計を見て行動できる児童が増えてきている。児童としては、8 割近くの児童が肯定的に自己評価をしているが、職員の見立てでは 不十分な児童が多いと感じている状況にある。	○	・ノーチャイムの取組は賛成。児童も先生も 時間を意識して行動することを継続してほ しい。 ・日々の評価をより細かくさつと評価する ことを積み重ねて児童と教職員のギャップ を埋めていけたらいい。 ・学習準備ができていない児童ともう 一度確認する必要があると思います。 ・5分前行動ということがいわれるが、オン ・オフつけられるよう指導をお願いしたい。									
		アンケートにおいて、自己肯定感に係る項目の目標値を達成する ことができた。昨年度よりもコロナ禍による制限も緩和され、様々な 行事等が行えるようになったことも要因だと考えられる。しかし、高学 年において、自分がクラスの一員として頼られている存在であると肯 定的に感じている児童はかなり少ない状況にある。	△	・自己肯定感の捉え方は、各学年同じ基準 でいいのか。発達段階で違うところがある のでは。 ・「相互評価」「自己の達成感」によって自 己肯定感は上がると思っています。 ・親の接し方にも大きなウエイトがある。 ・PTAでもそのような取組ができればいい。									
		保護者のサポートを得て、水泳学習を各クラス4時間行うことができた。水に慣れることや 安全確保につながる運動を目標に取り組んだ。9月に行われた三次市内小学生陸上競 技記録会に12名が参加し、意欲的に練習等取り組む姿が見られた。2学期運動会実施。 走、表現、団競の3種目を行った。運動会の振り返りでは、自分が一生懸命練習したこと だけでなく、みんなでバトンをつなぎ、協力してできた。合わせることでいい演技ができた 等、仲間と共に力を合わせると成功することを実感できた児童が多かった。	○	・運動会での素晴らしい結果に自信をもち 各自の体育の躍進に期待している。 ・地域、保護者と連携協働のもと良い取組 ができています。 ・外遊び時間の確保、充実を図っていくこと が大切です。									
		6学年中、5学年がキャリア教育プログラムを実施した。未実施 の学年は2学期に実施予定。地域の方と一緒にした活動、「ど んちゃん」「鶴飼」「防災学習」等、地域の文化や人と関わりな がら学習したことを地域や家庭へ発信することができた。	○	・「どんちゃん」に携わせていただき幸せでした。 ・キャリア教育とめざす3能力との関わりをもう 一度整理しておく必要があります。 ・キャリア教育は社会に出ていくうえで必要な学習 ということを意識して取り組んでいただきたい。									
		4月～9月の勤務時間外在校時間の平均が昨年度より23時間 減少した。19時退校という市の方針が出たこともあり19時まで の退校が定着した。しかし、45時間以上勤務する職員が固定 化しているため、今後も業務改善を推進することが必要である。	△	・月平均にしてみると分かりやすいと思う。 ・現在の実態から目標を再設定すればよ い。 ・業務改善、行事の見直しを図られてい ると感じます。									